

(倫理様式 2-2-1)

**地域包括支援センターが運営する認知症カフェ参加者の
居場所感に関する横断的調査
～社会的ネットワーク(LSNS-6)との関連に着目して～**

1. 研究の対象

2026 年 9 月～2026 年 12 月に健康オレンジサロンに参加された方

2. 研究目的・方法

(目的)

近年、高齢者の社会的孤立が健康や生活機能に影響を及ぼすことが指摘されている。共生社会の実現を推進するための認知症基本法では、認知症の人が希望を持って自分らしく暮らし続けることができる共生社会の実現が求められている。

認知症カフェ（サロン）は認知症の人、家族、地域住民、専門職等が交流する場として全国的に普及している。しかし、その成果は参加者数や開催回数等の活動実績で評価されることが多く、参加者がサロンをどのような居場所として認識しているかについては十分明らかになっていない。

高齢者の社会的孤立は健康状態や生活機能の低下と関連することが報告されており、サロンが社会的つながりを支える地域資源として、どのような役割を果たしているかを明らかにすることは意義が大きい。

今回、当センターが毎月開催しているサロンが参加者にとってどのような居場所となっているかを明らかにすることで今後の活動の充実に繋げることを目的とする。

(研究の方法・期間)

研究デザイン：横断的質問紙調査研究

対象者数：最低 20 人、目標 30 人とする。

9 月 1 回で 20 人に満たない場合は、9 月実施を基本にしつつ、同一人物の重複を避ける形で 10 月と 11 月と 12 月にも追加回収する。

研究期間：2026 年 9 月 1 日～2027 年 6 月 30 日

調査時期：2026 年 9 月 1 日～2027 年 12 月 31 日

調査対象：認知症カフェ（健康オレンジサロン）参加者

同意取得方法：本研究は無記名質問紙調査である。研究説明文書を配布し、アンケートへの回答をもって研究参加への同意が得られたものとみなす。

(倫理様式 2-2-1)

研究協力は自由意思に基づくものであるが、無記名のため一度同意をした場合、その後の撤回が不可能なことを説明し、文書による署名同意は取得しない。また、協力を拒否した際も不利益を被らないことを保証する。サロン終了前に説明文書と無記名質問紙を配布し回収する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

調査項目：【基本属性】年齢・性別・参加回数・参加期間・参加のきっかけ

【居場所感】①安心して過ごせる、②自分らしくいられる、③ほっとする、
④参加することが楽しみ

(回答) 5 件法：5＝とてもそう思う、4＝そう思う、3＝どちらともいえない、2＝あまりそう思わない、1＝そう思わない

【社会的ネットワーク】日本語版 LSNS-6

【自由記載】①参加して良かったこと ②今後期待すること

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

伊勢崎市地域包括支援センター北・三郷

研究責任者：相場 健一

住所：伊勢崎市大手町 1 - 1

電話：0270-27-4548